

資料3

課題に関するデータ収集・検証について

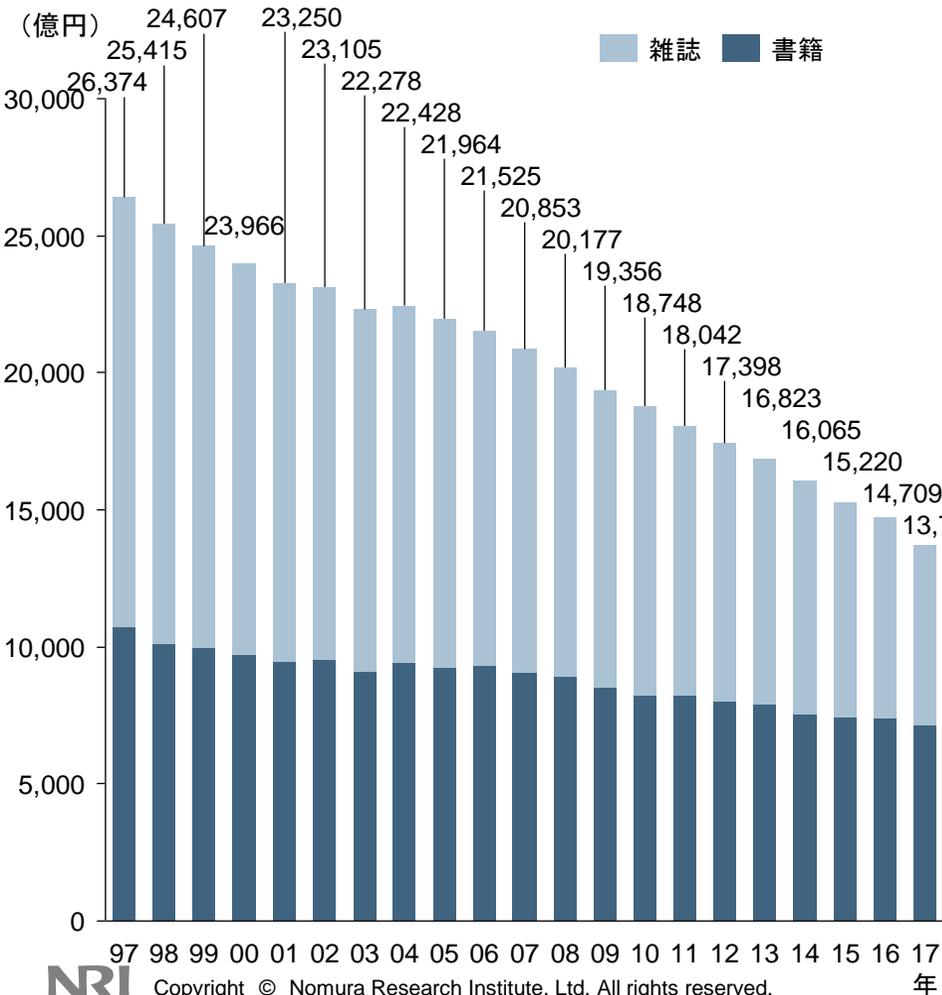
2019年2月27日

株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業本部

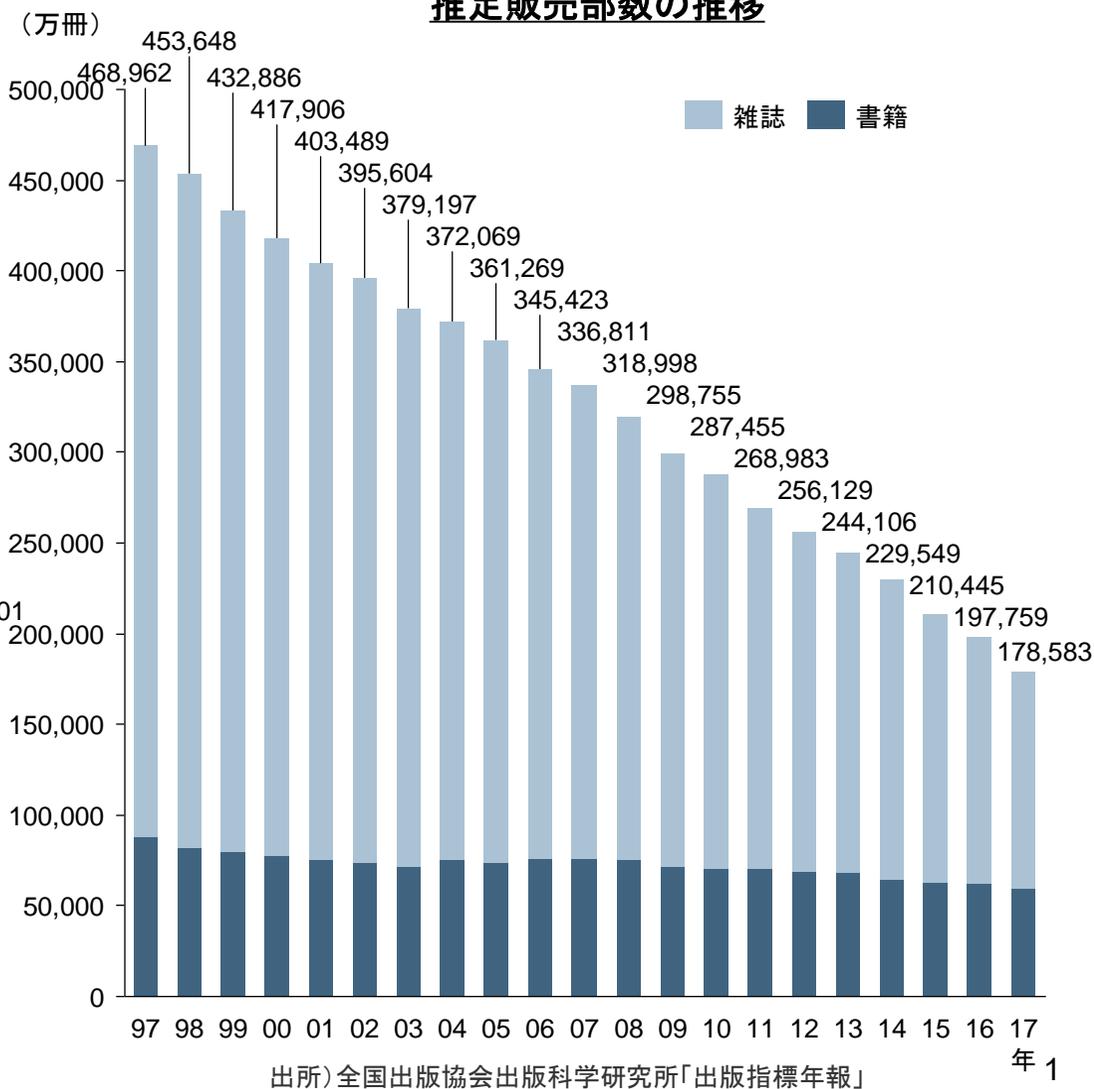
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ

出版物は販売額、販売部数ともに過去20年間減少を続けている

取次ルート経由の出版販売額の推移



推定販売部数の推移



出版取次、出版物輸送ともに経営環境は厳しく、物流の見直しに迫られている

- 出版物輸送を担う企業では経営が悪化しており、業界全体の物流合理化に迫られている。

出版物輸送で生じている問題

- 出版物輸送は、雑誌の売上低迷により物量が減少する一方、CVSの店舗増加による納品先の拡大で採算性が悪化
- CVSの配送先は2万2000軒から3万3000軒に1万軒増えた一方で、重量ベースでは約52%減少し配送効率が悪化
- 物量の減少と人手不足に伴うコスト増を運賃値上げでカバーが困難
- 東京都トラック協会の出版・印刷・製本・取次専門部会23社対象のアンケート調査では、「取次～店舗」の輸送事業者の9社中8社、「版元～取次」の輸送業者の4社中3社が「出版物輸送で経営が成り立っていない」と回答
- 同アンケートでは撤退の可能性について「取次～店舗」の過半数が「2～3年以内」「1年以内」、「版元～取次」の全企業が「2～3年以内」と回答

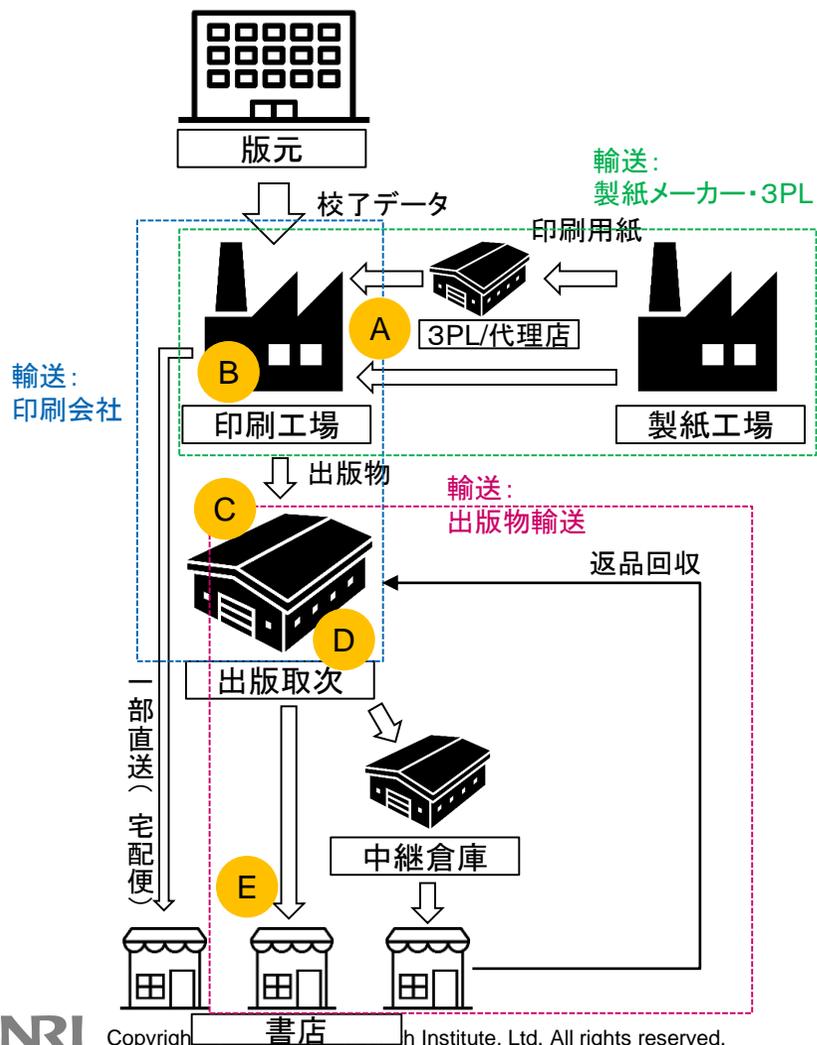
出版取次の物流改革の動き

- 日販、トーハン、大阪屋・栗田の取次大手3社は幹線・各エリアで共同配送を実施していたが、大都市圏の一部で行っていた自家配送も、業量減少を理由に取次他社との共同配送に順次切り替え
- 日販は大阪・阪南エリアでは16年4月から書店向けを共配に切り替え、トラック9台分の削減、積載率向上を図った
- 18年2月からCVS向けを自家配送から共配に段階的に移行
- 日販では書店とコンビニの協力を得て、首都圏自家配送エリアを再編し、エリアごとに書店とコンビニの運送会社を一本化し、行政区分ごとに1運送会社に委託、最寄りのデポから配送する体制を構築した

出所)カーゴニュース、2018年8月28日号、2018年7月12日号より作成

問題提起に資するデータの収集を目的として、問題発生各所の調査を計画

対象範囲と問題の発生箇所



箇所	測定項目
A	印刷用紙の印刷工場への納入 トラックの待機時間 トラックドライバーの附带作業
B	出版物の印刷工場からの出荷 積込に要する時間 トラックの待機時間 トラックドライバーの附带作業
C	出版物の取次倉庫への納入 荷卸、仕分けに要する時間 トラックの待機時間 トラックドライバーの附带作業
D	出版物の取次倉庫からの出荷 仕分け、積込に要する時間 トラックの待機時間 トラックドライバーの附带作業
E	出版物の書店への納入 店舗への納入時間、時間帯 納入時の附带作業 納入先店舗数、配送効率

サプライチェーン上で無理・無駄が生じている部分を明らかにする
その中で、特に特に問題となっている箇所について現場の観察、発生原因の分析を行う。

NRI

未来創発

Dream up the future.